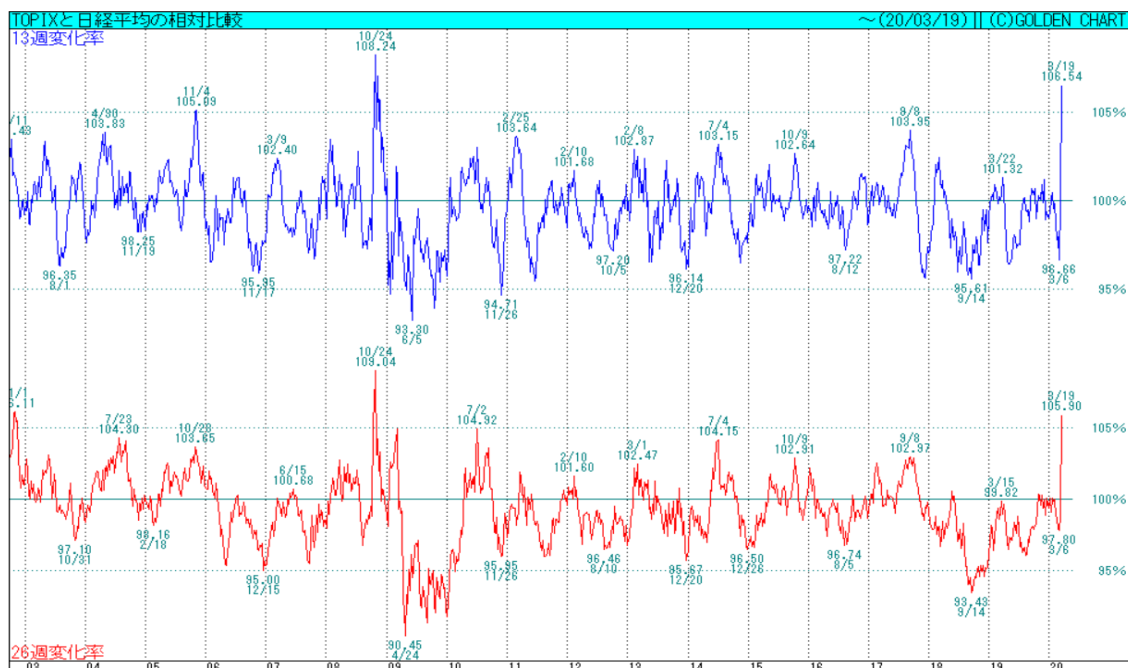


令和 2 年 3 月 23 日

< ワンポイント・レッスン (実践) >
(TOPIX と日経平均の相対比較)

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、世界の株価は大きく下落していますが、その中で TOPIX と日経平均に稀に見るアンバランスな動きが生じています。



All Copyright © ゴールデン・チャート社

TOPIX と日経平均相対比較は、TOPIX と日経平均の相対的な強弱を測ったもの。13 週と 26 週で測ったものの 2 種類。多くは 95-105 のレンジ内で動きますが、直近 13 週相対比較は、106.54 まで上昇、同様に 26 週は 105.90 でした。TOPIX が日経平均に対して、今までに相対的に強い動きであることを示しています。この相対比較は、リーマン・ショック時にも同様なことがありました。当時は、金融株が大きく売られました、それでも 108.24 を記録しています。データからみる限り、どこかの時点で反転となる確率が高いと思われるので、日経平均買い・TOPIX 売りの裁定取引に入るか、値高優良株の分散投資を行うなどの戦略として考えられるところです。

なお、一般によく使われている N・T 倍率は、日経平均を TOPIX で除算したものです。N・T 倍率も同様、TOPIX 優位の動きとなっています。要因として、日経平均は単純平均株価のため、値高株の動きが影響、対して、TOPIX は、時価総額がベースの指数で (時価総額の増減が比較的小さい) 大型株の動きを反映する指数。平均株価 (指数) の性格の違いに起因するものです。